

### ③ 足守庄絵図中の大井庄・阿宗郷堺について

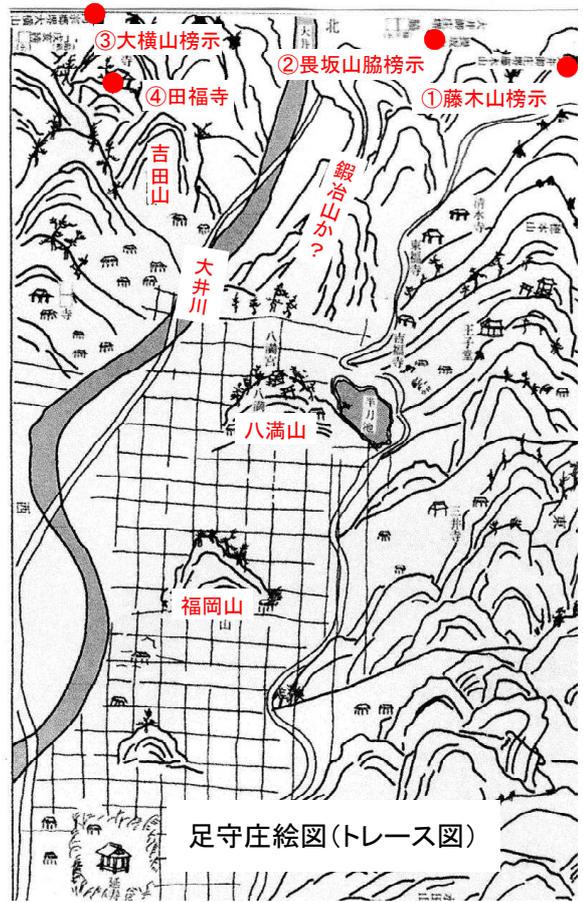
足守庄絵図は吉備の古代豪族、賀陽氏が、自身の荘園を後白河法皇へ寄進した際の嘉応元年（1169）に作成されたものです。

後、法皇から神護寺へ再寄進されました。絵図には、荘園の境界を示す榜示が5ヶ所に記されます。

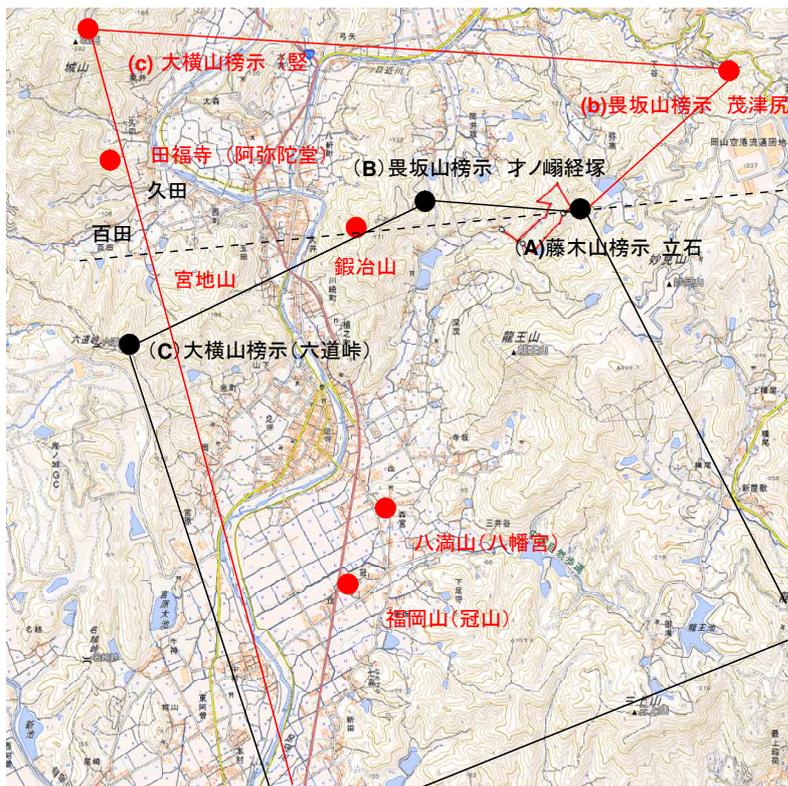
このうち大井庄との境界、①藤木山榜示と②畏坂山脇榜示。阿宗郷との境界、③大横山榜示について、公式（岡山市教育委員会調査結果）には、次のとおり示されているところです。

藤木山榜示は、(A) 足守字立石にある立石を藤木山榜示と推定されています。つまり、その付近に字藤木、また、藤木池が存在することを根拠としています。畏坂山榜示は、大井筒井坂地内の(B) 字オノ嶮にある経塚を榜示と推定されています。これは、オノ嶮が足守、大井の境界に当たる故です。両地点とも発掘調査が行われましたが、榜示の適否を証する結果は得られませんでした。

阿宗郷堺の大横山榜示は、足守庄絵図と地



足守庄絵図(トレース図)



形図の対比から陣屋町北西山中の六道峠がその名のとおり「あの世」との堺を意味するものであることや、足守・阿曾堺にあたることから、付近の(C) 塚状遺構の榜示可能性が高いとされています。

以上のうち、現地確認調査を行った、畏坂山及び大横山について、榜示ではないかと思われる「物」を見つけたので、お披露目し、皆様の御判定を願うものです。

まず、畏坂山脇榜示ですが、絵図に見える畏坂山脇榜示は、鍛冶山の麓に位置する筒井坂オノ嶮（経塚）よりも遙かに北東方向と見えます。



そこで、筒井坂の東、杉谷地内と見当を付け、地元の遠藤さんのお話から、杉谷八十八ヶ所のルート上の杉谷字茂津尻247番地に、立石にある藤木山榜示とそっくりの形の立石？を発見しました。方角の神様ということで、岡山空港関連工事で崩れていたものを復元したという噂話もありますが、はっきりしません。近くに宇井坂があることから、この(b)瓜二つの石を畏坂山脇榜示と推薦する次第です。

次に、阿宗郷堺の大横山榜示ですが、絵図中の大横山榜示は、鍛冶山と藤木山榜示(立石)を東西に結ぶ線より相当北にあるように見えます。この線より南側にある六道峠付近とするには無理があるように思われます。

そこで、現場の風景の中に絵図と同じ構図となるものを探した結果、室町期に毛利氏配下の長門氏が拠った粟井堅石城跡のある城山と、その南東の麓にある、今は無住の阿弥陀堂が絵図中の大横山と田福寺の位置関係にピ

ッタリです。

城山に立つ堅石は、藤木山榜示と見立てられた足守字立石の立石と同意語であり、また、百田、久田などの好字地名と田福寺という寺名の相性の良さも申し分のないものです。

かくして、(c)粟井の堅石こそ、大横山榜示と考える次第です。

残念ながら阿宗郷堺と言うには苦しい点がありますが、古代人のおおらかさに免じ御容赦願います。



### (賀陽氏の荘園)

律令制を維持する為には、土地開発を進め税収(田租)を確保しなければなりません。

そこで、開発推進剤として、三世一身法(723)・墾田永代私財法(743)による土地の私有化が認められました。これにより地方豪族等の土地開発が進みます。即ち、荘園の発生です。

しかし、荘園領主達は、これを中央の権力者へ形式上寄進し、田祖を回避する不輸の権を取得し、国司の立ち入りを禁ずる不入の権を手に入れたのです。



▼  
堅石